



共に学び 共に支え 夢と希望をもち 一人一人が伸びていく 笑顔が輝く学校

学校目標

目指す児童像

具体的な姿

取組の視点・方向

体

しょうぶな子

運動に親しみ
心身ともに健康な子

<運動やゲームを通して>
・すすんで運動する、最後まで粘り強く取り組む、気持ちよいあいさつをする、仲間と協力する、フェアプレイを大切に、仲間の考えや取組を理解する。
<生活習慣の大切さを知り、自己の生活を見直す>
・早寝早起き朝ご飯
・手洗い、うがいの励行
・バランスのよい食事
・廊下歩行の遵守

・コーディネーショントレーニングの研究成果の継承
・体育授業、業間体育の充実
・外遊びの奨励による運動習慣の形成
・基本的生活習慣の確立
・疾病予防、熱中症・食物アレルギー対策等命を守る行動の定着促進

知

かんがえる子

自ら課題を見つけ
すすんで学ぶ子

・分かる楽しい授業
・既習事項と関連づけて問題解決を図る。
・情報を取り出し、考えをまとめる。
・他者の思いを受け止めながら、自分の思いも伝える。
・言葉を通して、ものの見方や考え方を広げ深めようとする。
・PC等の情報手段を適切に用いて、情報を得て、整理比較し分かりやすく発信伝達共有する。

・ICTを活用した効果的な授業の実施（一日一回以上）
・「習得活用探求」学びの過程による言語活動の質の向上
・学びの残しのない教育課程の再編成（カリキュラム・マネジメント）
・一人一人の学習状況の把握と確実な習得
・長期休業中等を活用した補習の実施
・自律的な学習習慣の確立

学びに向かう力

すすんでる子

自分のよさに気付き
よりよい未来の
創り手となる子

・自分の力を学級や学校に役立てる。
・役割や責任を果たして生活する。
・みんなのためにすすんで動く。
・自分たちでまきりや約束をつくって守ろうとする。
・協同して最後まで取り組む。
・多様性を寛容に受け止め、良さを見だしよりよい関係を築く。

・児童主体の学級活動、児童会活動等を通したリーダーシップの育成、協力協働、自己決定を通したやりぬく力の育成、自己有用感の向上
・共感的な人間関係を基盤とする居心地のよい学級集団づくり
・外部資源を活用した体験活動の充実
・特別支援教育の理解、充実

徳

おもいやりのある子

命を尊び
感謝の心をもつ子

・互いの身になって考え、自分の思いを相手に向ける。
・相手のよさを見付けようとする。
・自分の成長を感じ、生きていることを素直に喜ぶ。
・周りの人に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもって接する。
・まきりの意義を理解し、すすんで守る。

・自分と向き合う道徳授業の充実
・自己指導能力、自己肯定感の向上
・自他の存在を認め、互いを大切にするあいさつの習慣化。
・規範意識の確立
・いじめゼロ
・70周年記念行事を通した愛校心、郷土愛の醸成。

重点項目

「七」ホシテントウムシの「あいいうえお・かき」

あ

あいさつ

豊かな人間関係の構築
道徳教育の推進
心に寄り添う教育の推進

あいさつは魔法の言葉
好ましい関係の第一歩
居心地のよい学級づくり

い

いのち

生命・人権の尊重
心身の健康の保持増進
新しい生活様式の浸透

命はかけがえないもの
命には限りがある
よりよく生きる

う

運動

体力向上
食育指導の推進
外遊びの奨励

体力は人間の活力の源
精神的な充実を支える

え

考える

主体的な学び
協働的な学び
問題解決的な学び

言葉は学習の基盤
他者の思いを受け止め、
自分の思いを伝える

お

やりとおす

夢を描く
リーダーシップの育成
学習習慣の定着

目標に向かって前進
助け合い・支え合い
粘り強く取り組む

か

感謝

他者意識
あいさつの励行
かかわりあいの重視

多様なかかわりの創出
地域との協働
創立70周年への取組

き

協力

自治的活動の推進
支持的風土の醸成
異学年交流

役割意識の向上
自己有用感の向上
モデルとなる高学年育成

学校経営の基盤づくり

組織の一員としての自覚と責任

開かれた学校

・CS学校支援本部と協働した外部資源（環境・人材）を活用した体験活動の充実。
・70周年記念行事への取り組みを通した家庭・地域との連携強化。
・学校ホームページの充実。遠隔学習、情報配信機能の向上。

協力体制の充実

・交換授業の実施、専科教員学年副担任制の導入による学年協力体制の強化。

自己研鑽 スキルアップ

・OJTの計画的な実施
主任（主幹）教諭と経験年数6年以下の教員がペアとなり、月1回以上の相互の授業参観、振り返り、管理職への定期報告。
・off-j T 外部研修への積極的参加 年1回以上
・教師道場、教育研究員等への挑戦。

働き方改革

・在校時間の削減
目標値 週45時間以内
週60時間ゼロ
・見通しや優先順位を考えた職務遂行
・ICTの有効活用
・棚卸し（カリキュラム・マネジメント）の推進